

私たち化石を主な対象として生物の系統関係を明らかにして行こうという者にとっては分子生物学的な資料は化石に残っていない生きだ進化の証拠と考えています。今

後とも、このような分野で生物の系統に関して、いろいろな考えが出されるのを期待しています。

もはやエイリアンの時代なのか

武 重 雅 文

本学に赴任して3年、本人はまだ青春のつもりなのだが、最近、「俺もオジさんか」と思うことが時折ある。「今の若者は」という言葉を口にした時に老けが始まることを知っていながら、ついつい口に出そうで煩悶したりもする。ライフサイクルの移り変わりには身を委せるしか術はないのだろうか。

私を悩ませてくれる対象は言うまでもなく学生諸君である。赴任直後の学生と今、授業でお相手している学生の質が異なってきたのか、それとも当時はこちらに気づくだけの余裕がなかったのか、学生の反応に首をひねるようなことはあまりなかったように思う。私もかつて劣等学生であったから、授業の出席状況や授業中の退室については、なつかしいわが姿を見るようで十分に了解可能であった。しかし、次第に授業での学生諸君の反応から、彼我の差異が気になってきた。

この最中、最近出版された『まるでエイリアン』という現代学生論を読み、成程やはりと納得することが多々あった。この本は東京の私学の学生を対象とする若者論である。したがって香川大学生の実像とは必

ずしも一致しない。(例えば、ウォークマンを身につけた学生やいわゆる「女子大生」はあまりお目にかからない。)しかし、講義風景や演習授業の雰囲気についての描写には、いずこも「やはりエイリアン」と首肯せざるをえない。

私の最近の経験からエイリアン症候群と思われる二つの例を紹介しよう。

- ① 昨今、学生諸君は歴史についての話にはほとんど興味を示さない。弁証法的発展であろうと、直線的な発展であろうと、はたまた循環論であろうと、歴史意識は現代の位相と未来の方向を確定する重要な要素であることは言をまたない。しかし、彼らにとって歴史とはあずかり知らぬ過去であって関知することではないのか、たとえ現代史の事件であろうと歴史の話には非常に鈍感である。共通一次の受験科目であった者もかなりいるはずなのにである。
- ② 歴史意識の欠如と相互して、保守一革新イメージも希薄化し、政治意識にも透明化する傾向があらわれている。歴史に発展がない以上、論理的には保守も革新もありえない。彼らがこのどちらに自己

を定位するかという問題以上に、保守や革新なるものの明確なイメージ自体が存在するかどうか疑わしい。

一般演習授業での学生たちの反応はおよそ次のようであった。

保守；安定、中味がある、現状維持、冷静、堅固な城、強力……。

革新；変化、口先だけ、単なるスローガン、過激、烏合の衆、無力……。

この結果を彼らの保守化と解釈することも可能である。しかし、彼らが歴史の変化に理想もユートピアも見えていないとすれば、保守化というよりは非革新化と名づけた方がよいのではないか。彼らの回答は革新に対峙するものとして保守イデオロギーへの傾斜を示すものではない。むしろ、理念や概念を排除した政治理解であり、日常感覚で政治像を表現している。したがって、日常生活に政治の介入を感知しない多くの学生たちはこの種の質問に、「わからない」、あるいは「無色」と答える。

それにしても、理念を媒介にしない政治理解はきわめてリアルであり、感覚的である。そして、政治の劇的側面を皮膚感覚で感知する。ある学生はこの質問に次のように答えている。「保守は論理よりも感情のぶうかりあい。でもしよせんこんなものかもしれない。革新はあげ足とり。革新は青春しないだろうなあ。」

これらの例はあまり多くはないかも知れない。また、香川大学は都市部の大学に比し、エイリアンたちも現在のところ少数派にとどまっているだろう。しかし、時代背景を考慮すれば、エイリアンたちが今後ますます増殖すると考えねばなるまい。もはやエイリアンの時代になりつつあると観念すべきであろう。

ところで、彼らが多数派になった時、われわれを見て彼らはどう思うのだろうか。きっと、こう言うに違いない。

「あの先生まるでエイリアンだな。」因果応報、時代は巡る。

期待される人物像

戦後もしばらくの間は、二宮金次郎の銅像が小学校の校庭に見られたものだが最近ではほとんどその姿を見かけなくなった。しかし二宮金次郎に代る銅像はまだ現われていないようだ。戦後の日本は自由と平和と民主主義の世の中に変わって価値観が多様化し、期待される人物像もまた多様化したため「画一的」に提示することが難しいか

小林 立

らかもしれない。それでも人物像の基本的な型としては「良い子」「悪い子」「普通の子」「おまけの子」という四つの区分が既に確立しているように思われる。この区分は「世のため人のため」という大それた基準によるものではないかもしれないが「人に迷惑をかけない」といった控え目な基準による区別であると言えそうだ。しかし、こ